

「姑蘇繁華圖—18世紀蘇州の光と影」

—2012年度 企画研究映像（DVD）完成台本— 【サマリー】

重森 貝 崙 はい ろん

この論考・完成台本は、研究映像DVD「姑蘇繁華圖—18世紀蘇州の光と影」をより正確に、分析的に観ることができる、文の付属資料として作成した。

18世紀・乾隆帝治世下の蘇州は、中国に咲いた大輪の華であった。生糸・絹織物、綿布の生産と販売を主たる産業として、蘇州の経済力は中国随一の豊かさを誇っていた。繁栄の頂点に達していたこの都市の文化は、さまざまなジャンルでトップレベルにあった。

たとえば演劇・音楽文化。蘇州近くの崑山（こんざん）で生まれた「崑曲（崑劇）」は北京の京劇にも大きな影響を与えたほど一世を風靡した。芝居とくれば美味しい料理、すなわち食文化で、富の集中するところに美食が集まったのである。そして園林文化、つまり庭園文化もまたユニークである。独特の形をした太湖石を配し、運河の水を池に導いた優美・艶冶な蘇州の池泉園林は、中国庭園文化の代表的存在として知られていた。

この絵画は、乾隆24年（1759年）、蘇州出身の画家・徐揚によって描かれた。徐揚は蘇州の華々しい経済活動のありさまと、この地に咲き誇った諸文化の粋を約12巻の絵巻物に写し取っている。登場人物一万二千余、水上の船舶約四百隻、五十余りの橋梁と蘇州及びその衛星都市・木瀆鎮（もくどくちん）などの織り成す賑わいが活写されている。この絵巻は乾隆帝への献上絵巻であるため、貧困や無頼の世界が描けない、といった描写の対象と範囲には限界があったが、同時代の文字史料により、この絵が一級の優れた史料であることが裏付けられている。そして、本映像は移動撮影を駆使することにより、この絵巻の躍動感溢れる魅力に迫っている。